

大江戸三人男

帝キネ時代映畫

脚色者
監督者
撮影者
主演者

矢内 政夫氏
江後 岳翠氏
岡本 静夫氏
明石 線郎氏
尾上 紋十郎氏
中村 小福氏
千草 香子嬢

解説——「親分子分」について江後岳翠氏が監督製作した時代劇である。略筋——天下の御意見番大久保彦左工門を親分と呼び勇み肌の一心想太助は河岸の名物男と謳は

れてゐた。ある時太助の最良先の松前屋五郎兵衛は卑怯な島田玄龍や伊豫守の悪計で盗賊及逆人の罪を以て捕はれ身となり妻お派や番頭清兵衛は悲しみに目を送つてゐた。始終を聞いた太助は伊豫守の無情を怒り彦左工門に頼り五郎兵衛救助に腐心した。爲めに五郎兵衛の汚名は拭はれ返つて玄龍は捕へられた。繼母や弟を思ふ五郎兵衛は逆人の罪を負ふて語らなかつたが太助の熱心な頼みで武家育ち

一大江戸三人男—帝キ—江後岳翠氏作品、主演者の明石線郎氏



の彼の前身を語つた。伊豫守と彦左工門は来る廿八日を約して別れたが伊豫守は熊谷格之進を以て津輕なる五郎兵衛の繼母お牧の邸へ急がせた。彦左工門は太助と清兵衛を證人に松前家の仲間であつた又兵衛を連れ歸るべく使者として急がせてゐた。心好からぬお牧は鐵之丞の諫め、聞かず遺言状を認め伊豫守等と悪計をめぐらせた。太助は彦左工門の身を案じ馬にて急ぐ途中折よ、又兵衛に出合ひ三人は喜んで早駕籠を飛ばせた。彦左工門と伊豫守との再度の對決の時に来た。お牧の申立ては五郎兵衛の不利となり迫り来る時刻彦左工門は切腹しやうとする時驅りつけた又兵衛の差出した遺言状や鐵之丞の申聞きにより彦左工門の勝利となつた。政道を明かに出来た彦左工門の喜び仲氣な太助も五郎兵衛も互に喜び合つた。